

令和4年度 第3回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～地域活動栄養士 PFCの会～



日時：令和5年2月3日（金）

午前10時00分～11時30分

場所：総合保健センター 3階研修室

参加者

地域活動栄養士 P F C の会 8名

出席者

市長、栗原副市長、総合政策部長、市民部長、福祉部長、こども未来部長、保健医療部長、産業観光部長

意見数

分類	件数	内容	頁
子ども・子育て	1	・子どもを対象とした食育について	7
福祉・保健・医療	4	・地域活動栄養士P F Cの会について ・川越市栄養士職の現状について ・担当部局間の連携について ・市による依頼事業の減少について	2 3 4 6
産業・観光	1	・農業ふれあいセンターでの食育活動について	9
計	6		

意見交換（要約）

《地域活動栄養士PFCの会について》

意見

私どもの会は、川越市を中心に富士見市、当時の上福岡市と大井町（現在のふじみ野市）、三芳町の地域活動を目的とした管理栄養士、栄養士の有志によって平成8年5月に発足した会です。

事務局を当時の県川越保健所に置き、地域活動を通し食生活の向上など地域の健康増進に寄与し、併せて、会員の資質向上と親睦を図ることを目的にしています。県川越保健所の移管に伴い、事務局を川越市保健所に変更しています。

バランスの取れた食生活のアドバイザーとして、それぞれのライフステージの皆さんの穏やかな毎日を願って健康で活動する団体です。

会の名称のPFCは、Pはプロテインでたんぱく質、Fはファットで脂肪、Cはカーボハイドレートで炭水化物、この頭文字をとってPFCの会という栄養のバランスを考える会として名前をつけました。

現在は、地域活動栄養士PFCの会として、自治体から様々な依頼を受け、栄養相談や栄養教室、料理教室などの指導を地域で積極的に展開しています。健康づくり支援課と共催事業も毎年実施しています。また、現在は未就学児と保護者のための食育を年に3回しています。

PFCの会は、平成8年に発足し、最初に行ったことが国民栄養調査です。その後、宮元町にあった県川越保健所で、エプロンシアターの実演の題材をつくりました。富士見市のみほの幼稚園でもエプロンシアターを行っております。

それから、歯ッピーフェスティバル、健康まつりにも参加しております。また、富士見市子育て支援事業も参加しております。市農政課委託事業も引き受けております。

平成18年、2006年からたのしい食育を、健康づくり支援担当と協賛で行っております。また、同年に坂戸市の坂戸葉酸プロジェクトチームにも参加しております。それから、特定保健指導にも参加いたしました。

お魚をなかなか食べる機会がないので、さかな丸ごと食育健康プロジェクトにも参加しております。

PFCだよりを年に3、4回出していたのですが、2019年のコロナウイルス感染症の流行以降年2回の発行となっております。

ほかにも様々な事業に参加していたのですが、コロナウイルス感染症の影響で今はほとんどできておりません。しかし、最近再び事業として参加できるようになったので、よかったと思っております。

《川越市栄養士職の現状について》

意見

宮元町にありました保健所のおかげから関わっておりまして、川越市が中核市になって川越市保健所ということになりましてから市役所の方、保健センター、それから健康づくり支援課の方々と一緒に、様々な活動をさせていただきました。

川越市の規模が大きくなって中核市になりましたが、保健師、栄養士の人員が少ない。保健師は今ですと63から64名在籍しているようですが、特に栄養士の人員数が少ないです。栄養士につきましては、平成15年に川越市保健所と関わるようになってから変わっていません。

やはり、健康を考える市ということであれば、専門職をもっと増やしていただきたいということで、お話をさせていただいておりますけれども、栄養士は増えてこない。毎年、栄養士が増えたのかお伺いしても増えておらず、残念に思っております。

保健師は、オールマイティーに医療から栄養面も勉強されているので、時には保健師で間に合ってしまうという部分もあるかもしれませんが、やはり栄養士、管理栄養士というものは専門職ですので、健康に関して細かいことまでやることのできるのではないかと思っております。もっと栄養士を増やしていただけたらという現状で、栄養士さんを増やしてほしいと思っている方もいらっしゃると思います。

そのような中で、私たちの活動というのは、行政との関わりがかなり強いものですから、行政の栄養士さんと強力で組んでいかないと、市民の方に対して対応ができないような状況があるのではないかと思います。

栄養士に限らず、事務職等他の職種の方も、栄養に関する業務も事務等の業務も行っていることで、栄養に関する業務がなかなか継続していかないことが悩みだと思っております。私どもとしましては、特に栄養士を増やしていただいて、その栄養士に

私たちも協力させていただきますので、よろしく願いいたします。

今は、川越を3分割ぐらいに分けて対応していると思いますが、可能ならもう少し、4分割から5分割して、もう少し細かい配慮が必要なのではないかと思っております。

保健医療部長

本市では、健康川越推進プラン第2次を策定しており、この中で第3次健康日本21川越市計画、第3次川越市食育推進計画、第2次川越市歯科口腔保健計画、これらを基に健康づくり、食育、歯科口腔、各分野の取組を相互に取り組んでいるところです。また、ときも健康プロジェクトいきいき川越大作戦でも食事、運動、健診を柱にした事業を展開しているところです。

食については、重要なことであると認識しており、食は人が生きていくために必要なもの、人生を豊かにしてくれるものであると認識をしております。

しかしながら、栄養士につきましては、保健センターを含めて栄養士の数は多くないと認識をしております。健康相談などに保健師が行ったときに栄養の関係の相談を受けることもありますが、栄養士職の専門性まで保健師が代替できるとは思っておりませんし、保健師からも専門性の部分につきましてはやはり栄養士が必要であるとの話もありましたので、今後さらに栄養士と保健師との連携を深めていければと思っておりますので、御理解いただければと思います。

《担当部局間の連携について》

意見

市の担当部局間の連携につきまして、健康づくり支援課において、各ライフステージの啓発資料や情報などを多数発信していただいておりますが、その情報について、横のつながりが無いというか、担当部局間で連携できていないように思われます。栄養の部分において、総合的に把握されていないように感じておりますので、特に高齢者の栄養管理は、住み慣れた地域で生き生きと暮らすための介護予防の取組において重要であると思っておりますので、栄養管理に関して総合的に把握されている方がいていただけるとよいのではないかと思います。

他市の場合には横の連携がありまして、1つの提案に対して、こういった資料があります、こういったものを使うとよいのではないですか、と提案してくださった

り、資料を用意してくださったりしていました。しかしながら、川越市においては、私たちの会独自で資料を作って、その後調べると、市で作成したよくできた資料があることがあります。市の資料を有効に使えたらよいと思いますが、そういった資料があることを私たちが把握できておらず、市民の方の手元に届いていないのではないかというのを痛切に感じております。それは、市の事業を請け負ったときや、私たちの会に依頼が来て事業を実施しているときに感じたことであります。

提案としましては、PFCの会が地域から、地域の高齢者、そして幅広い年齢層に接している部分がありますので、川越市に相談した際に関係する部署につないでいく役目が可能なのでは思っております。市で発信した情報を伝える役目になればと思っております。

福祉部長

御意見のように、川越市は人口が多いというところで、縦割りにならざるを得ない部分もあります。

福祉部では、現在、要支援1や2、チェックリストである点数以上取った方に対して、介護予防における栄養分野の取組を埼玉県栄養士会川越支部と連携を図りながら今、進めているところでございます。

主な取組としましては、いもっこ体操を行う地域の自主グループに対する出前講座や、ときも運動教室の栄養に関する講義、それから低栄養リスクなどに対する訪問支援、自立支援型地域ケア会議における管理栄養士からのケアマネジャーへの助言などを行っております。

そのほかの介護予防事業に関しても、埼玉県栄養士会川越支部と情報共有し、今、他市間連携ということで様々な方と連携を図りながら行っているところです。

また、市に相談があった場合、基本的に必要に応じて関係部署につないでいく形を取っておりますので、御了承ください。

保健医療部長

保健医療部では、国民健康保険課で特定保健指導の業務を行っております。健康づくりについても行っておりまして、栄養に関する業務の情報共有ということで、お互いに連携しております。資料につきましては、お互い事業のときなどに啓発で配るというような連携も取っております。また、川越市ときも健康プロジェクトでは保

健医療部と福祉部の担当で行う会議があり、そこで情報交換を行って連携を取る体制を取っております。

しかしながら、高齢者の健康づくりという部分では、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施が始まったばかりであり、今後も低栄養対策に取り組んでまいりますが、まだ情報共有、連携ができていないと思っておりますので、今後の連携状況、連携の取り方が課題であると思っておりますので、暫時検討していきたいと思っております。

市長

縦割りの弊害につきましては、ほかの事業や分野でも言われていることをごさいます、市としては担当部署の連携を取っていると考えていると申し上げたのですが、まだ不足している、意識が進んでいないと認識しております。ほかの事業においても指摘されることが多いということも認識しておりますので、御意見の、それぞれの担当間でのつながりが希薄であるという点につきましては、しっかり受け止めて、これは費用面の問題ではなく、意識の問題でございますので、改善に努めてまいりたいと思っております。

《市による依頼事業の減少について》

意見

特定保健指導をはじめ、調理実習、個別栄養相談など栄養指導業務などの業務の依頼を多く受けてきました。

ここ数年、川越市からの依頼業務が減少しています。コロナの影響により事業自体が減っていることもありますが、会計年度任用職員制度になりまして、会計年度任用職員として応募するには、管理栄養士である必要がある中で、PFCの会の会員が必ず管理栄養士ではなく会計年度任用職員になることができないという現状ですが、実際活動していく中では栄養士も管理栄養士も差がありません。

やはり、実績のある方や経験の豊富な方たちで実施する事業、会として参加した事業も大変多かったです。そのような事業を続けていきたいと思っておりますので、会計年度制度に関わらず、そのような事業に参加できたらと思っております。

そこで、提案ですが、川越市の健康づくりや食育、母子、高齢者の栄養について適切な情報が必須であると思っております。そこで、PFCの会として他市においても幼

稚園で食育活動、高齢者への栄養ケア等の事業実施がありますので、取り入れていただけたらと思っております。

専門職として、川越市民の健康づくりに寄与できることがたくさんあると考えておりますので、今後もそういった事業の依頼を受けることができればと思っております。よろしく願いいたします。

保健医療部長

国民健康保険では、特定保健指導という業務を行っております。その中では栄養管理の業務を行っており、併せて、データヘルス計画に基づいて生活習慣病の重症化予防といった事業も行っております。

そのような栄養相談と、他には、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施においてもそのような栄養業務があるのですが、法令の関係で指導については管理栄養士が行うということになりまして、管理栄養士さんをお願いをしている状況です。そのため、会計年度任用職員を採用するにあたって、管理栄養士さんをお願いをしているという部分が多くなっております。

健康づくり支援課の共催事業で、たのしい食育などを一緒に行っているという部分もございます。令和3年が1回開催、令和4年につきましては2回、これから開催します。今後につきましては、来年度に3回くらい開催したいと考えておりますので、またその中で皆様に御協力いただければと思っております。

併せて、健康づくり支援課で取り組んでいる食環境づくり推進事業がございます。それは、減塩についての取組を企業や地域に広げていくという事業で、今、展開を始めようとしているところです。これから展開していく事業ですので、皆様にも御協力いただける部分を検討していきたいと思っておりますので、御協力お願いいたします。

《子どもを対象とした食育について》

意見

PFCの会として、健康づくり支援課と共催で未就学児とその保護者を対象とした事業、たのしい食育に協力しています。また、歯ッピーフェスティバルや健康まつりといった市の事業にも、幼児を対象としたエプロンシアターなどの媒体を活用

してボランティア活動を実施しています。

特に、エプロンシアターは対面により対話ができる人気のある食育活動です。

他市において、私立幼稚園で丁寧な安全対策を行い、コロナ禍でも食育事業として活動しておりました。

そこで提案ですが、PFCの会は、参加者を集めて行う事業だけでなく、これから集団に入っていく子どもへの積極的な食育事業として、違ったアプローチで子供たちや親御さんに伝えることができる団体であると思っております。各保育園、幼稚園での食育活動の範囲を、川越市でも広げていただくことは可能でしょうか。

こども未来部長

現状、保育課には栄養士が2名おり、公立保育園は20園ございますが、その3歳、4歳、5歳を対象に、栄養教室を開催しております。具体的には、栄養素の話や、ちょっとした、子供たちでも作ることができる料理などの活動を行っております。

保育園側からすると、可能であればそのような取組は、もっと頻度を上げてほしい、回数を増やしてほしいといった意見もありますが、栄養士の業務として、献立の作成、アレルギー食への対応、宗教上取扱いが難しい食物への対応などがあり、栄養士の業務が多忙であるところから、事前のすり合わせは必要になりますが、PFCの会さんと何らかの形で協力体制ができればと思っております。

ホームページにあるエプロンシアター「大ちゃんのおべんとう」の動画も確認させていただいて、栄養士にも話をしますので、具体的な進め方や、費用面の相談をさせていただく必要があると思っております。この場ですぐに具体的な話は難しいですが、協力体制を作りたいという考えですので、御理解賜りたいと思います。

御質問を受けて、私立保育園協会の会長及び私立幼稚園協会の方と話す機会があり、民間の保育園や幼稚園でもそのような活動ができるのかどうか理事会に諮りたいとお話がありました。改めて会長にはお話したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

意見者

ありがとうございました。

今のお話しで、とても先が明るくなりました。私たちがやってきた活動が認められるというのは、とてもうれしいことです。

もう1点ですが、幼稚園の保護者を対象にした、子育てフォーラムがあったということで、園に通わせているお母さんたちが参加できたようです。とてもよかったという話をたくさんの方から聞きました。

そのフォーラムは作曲家、作詞家の先生に来ていただいている、精神的なリラックス面がありますが、そのようなフォーラムで健康に必要なその栄養の話を組み込んでいただきたいと思いますので、お願いできればと思います。

市長

先日のフォーラムは、川越地区私立幼稚園協会の主催の事業でございます。なので、今の御意見については、私立幼稚園協会にしっかりと伝えておきたいと思えます。

もう一つですが、行政がいろいろな業務を委託、例えばPFCの会にお仕事をお願いするときに、やはり法人格を持っている団体のほうが色々な意味で頼みやすい、簡単に言えば、補助金を出したり業務を委託したりした時に、しっかりできているかどうかをきちんと形で表してもらわなくてはならないという部分がある関係で、法人格を取得していただいたほうが、行政としてはいろんな事業を委託しやすくなるという面があるかと思えますので、それはちょっと御検討いただけたらと思えます。

こども未来部長

今、フォーラムの話がございましたので、私立幼稚園協会の会長さんにも私から、こういった御提案をいただいたということで話をさせていただきます。

こういったお話は対面でお願ひするのが筋であると思えますので、私立幼稚園協会の役員会のスケジュールなど確認しながらやらさせていただきますので、御了承ください。

《農業ふれあいセンターでの食育活動について》

意見

農業体験で収穫した野菜を使用して、その野菜がこんなにおいしいんだよ、こんなにきれいにできるんだよ、と調理してお見せして食べてもらう、そして、簡単なお料理を提供して、レシピも提供して食べていただく。食べていただきながら、そのお野菜が体にどんなにいい効果があるかというお話をするということ、農政課

の依頼により農業ふれあいセンターの食育として活動しております。また、うどんなどの郷土料理を作っているいなほ会との料理教室を年に2回やっております。以上が農業ふれあいセンターの食育としてやっている活動です。

初めSDGsについてのお話を、と思っておりましたが、この農政課のふれあいセンターのお仕事も、地産地消のお話になります。

10年以上前から、川越市内の農業を行っている方などで集まってレシピ作りなどを行ったことがあります、そのつながりから、若いお母さん方と栄養相談や料理教室をやった時に必ず日本のものを食べるように、これから食べ物がなくなってきた、外国から来なくなると日本のものを食べていないと日本に食べ物がなくなるよ、という話をしています。それをもっと広めていかなくてはいけないと思うのです。

それから、フードロスの問題です。今、食べ物の期限がきていなくても残ったら廃棄してしまう。それがステータスシンボルのようになっていて、食べなければ簡単にすぐ捨てるようになってきていると思います。それを、そうではなくて余ったものを冷凍して、チャーハンなどにするといった残った食べ物での料理を考えていくと、これから食糧不足になっていった時に日本が救われるというデータも出ているので、そのようなことを若いお母さん方に伝えていくことが、私たちの役割であると思っております。

また、野菜も買ってきて余ったから捨ててしまうというのではなく、保存方法や、冷凍の仕方の工夫などを教えていくことで、冷凍はおいしくなくなるのでいやだということがなくなり、廃棄が減ると思います。そのようなことを教える教室ができるといいなと思っております。

あとは、調理のやり方で、ずっと火にかけておいてガスを使うのではなく、一度火を止めて1時間ぐらい置き、すると味がしみ込むので、食べる前にまた火にかけることで出来上がるというようなことを研究してレクチャーすることが、私たちの活動に大切なことだと思っております。

先日、スーパーなどでは、いつでも満杯にしておかないとお客さんが来ないので満杯にしておく、そうすると絶対に残る食材が出るので、それを使ったおすそわけ食堂というのをやっているテレビで見たのですが、そういったものを使って私たちが市の教室のようなものやっていくことができれば、市民の人たちに大事にものを使うということを考えてもらうのに、すごくいいことかなと思っております。

産業観光部長

これまでも、農業ふれあいセンターにはいろいろと御協力いただきましてありがとうございます。

昨年の11月に農業ふれあいセンターをリニューアルさせていただきまして、グリーンツーリズム拠点ということで、この中には改修した農業ふれあいセンターや、体験農園もありで、今までどおり農業ふれあいセンターについては活動しています。

リニューアルした農業ふれあいセンターでは、調理室を新設しております。これまでも、令和元年には、25家族約80人が参加しましたタマネギの収穫体験とサラダの試食という形で、収穫体験と調理実習を行っております。こういったものを中心として、今度グリーンツーリズムということで名称が変わりましたが、農業ふれあいセンターの目的は市民の健康的でゆとりのある生活の実現ですので、その目的を実現するために、今御提案いただいたような食べ物の大切さやありがたさなどを理解することができるような実習や講座は農業ふれあいセンターの目的とも合致しますので、色々御提案いただければ講座を行うことも可能ですので、前向きに考えていきたいと思っております。

また、売れ残りや農家で出荷できない規格外の野菜などを活用するといったことも色々知恵を絞るとできると思っておりますので、そのようなものの活用も含めて、今までの収穫をして調理するだけではなく、皆さんの知恵を拝借しながら、体験は皆さんに好評な事業ですので、そのあたりを展開していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

意見者

農業ふれあいセンターの改修後、料理ができなくなりました。この前も料理教室はとても無理なので、近くのほかの施設で実施しました。農業ふれあいセンターの調理室はオール電化で小さく、料理教室どころか調理も無理になってしまいました。調理室が使えないので、新しくなった農業ふれあいセンターでの料理教室は無理と感じています。

産業観光部長

その点確認しますが、問題点は規模なのでしょうか。

意見者

熱源が不足しています。

産業観光部長

熱源ですか。分かりました。承りました。

意見者

最近できた施設の調理室、例えば南公民館などは狭くなったり使い勝手がよくなかったりすることが見受けられる気がします。

なので、これから施設を造るときには、栄養士など料理の専門が調理実習をやれるような、使い勝手のよいものを取り入れていただきたいです。新しい施設は、見た目はきれいでよいのですが、使えないことが増えています。料理を教えることができる人が一緒に造らないと無理なのではという気がします。

産業観光部長

分かりました。御提案を受けまして、どのようにしたら使えるようになるのか一生懸命考えたいと思います。

意見

公民館の関係ですが、今の農業ふれあいセンターでの農業体験まではできないかもしれませんが、調理実習は各公民館でできないでしょうか。農業ふれあいセンターだけでは、そこ1箇所ですべて終わってしまいます。同様の事業を各地域に分散して、公民館単位で実施していただけると、参加していただける人数も広がってくるし、地域性の違いにも対応できます。旧市街の公民館と、旧市の外の町では、感覚的にも実際関わってみて違ってくるし、生活環境も違います。また、購入の仕方という生活環境が違うので、その公民館に合った適切な指導がしていけたら、さらにいいかと思えます。

以前は公民館事業がかなりありました。公民館単位で依頼をいただいていたので、その時は活発だったのです。参加する方も同じような環境、同じような状況の中で参加してくださっているのです。質問に対してもこちらも回答しやすく、無理なくこなせていたのです。なので、そういったものをまた充実させていただけると、さらに発信できるのかなと思っております。

市民部長

直接公民館の講座の担当ではございませんが、市内に今11の市民センターございまして、公民館が併設しております。その中に、調理室があるかと思いますが、コロナ禍になって、料理の教室自体なかなか開催できないということで、調理室の

利用頻度が今少ないというのが実態です。

また、コロナ禍が一段落すれば、以前のように利用も増えてまいりますし、様々な講座が増えてくるのではと考えております。

市長

本日は、貴重な御意見を頂戴いたしまして本当にありがとうございます。

P F Cの会の皆様方には、日頃から地域の住民の健康増進、あるいは食生活の向上のために御尽力をいただいておりますことに、改めて感謝を申し上げる次第でございます。

頂戴しました御意見につきましては、すぐに取り入れられるものについてはできるだけ早く取り入れ、時間のかかるものもございしますが、対応して行きたいと考えているところでございますので、御理解をいただきたいと思います。

いずれにしましても、お忙しい中、本当に貴重な御意見を頂戴しまして、本当にありがとうございます。